

鎌倉で弑せられなかつた

史實を根柢から
覆した反対説文部省

大塔宮護良親王は
足利直義の臣源邊伊賀守義博に
殺せられた
史實は有名なもので、現
在小學校で用ゐてゐる國定教科書にもそのやうに記されてある
ところが右の史實を根柢から覆へした有名な反対説が宮城縣石卷町高橋鐵牛氏から起つた、高橋さんは永い期間に亘る研究調査の結果護良親王は鎌倉で殺されないで遠く石巻に難をのがれ、たと断定するに至つた。陸前地方で鐵牛さんといへば誰も知らぬ者もない
教育界の恩人で我邦社會教育の先驅者としても知られてゐる、明治三十年頃幻燈を使用し社會教育の巡回講演をした程で中等學校をいくつもつくつて専ら郷土史の研究をなし、はじめ文學博士大槻文彦氏が護良親王を祀る石巻の一王子の宮の舊跡を究めたが徹底しなかつたのを遺憾として高橋さんは護良親王に關する史實研究に取り出しその参考書籍を蒐集すること一萬五千冊に及んだ、その結果色々の疑問がおこり先づ太平記によれば親王を弑した瀬邊伊賀守は大逆の人間と塔宮に助けられる次に太平記では伊賀守は土牢にしのび入りて親王を刺さんとしたが、第一刀は親王のお歯のため一寸以上折れたので第二刀でお命を奪つたとするがこれは常識では考へられない

てゐる又南米企業組合は山科禮

成功であつた是から千島の生の

藏氏を理事長に以下知名實業家

百五十餘名を組合員として去る内閣更迭のために常にその計

画も當局の諒解を得る能はず結

局沙汰止みとなつてゐたところ

進を奨励して産業の振興を圖る

明春上野で

化學工業博覽會

にて種々畫策してゐたが頻々た

正十年設立以來南米開發につ

いて種々畫策してゐたが頻々た

大正十年設立以來南米開發につ

いて種々畫策してゐたが頻々た

